地域おこし協力隊の活動日記

文／星　雄介　隊員

早いもので、協力隊となり、2度目の冬になりました。

2年目の私たちの活動は、親方たちや他の農家さんでのいちご収穫や選別から始まり、いちご以外の作物として検討しているブロッコリーの種まきから収穫・出荷、いちご分校（地域産業連携拠点施設）の研修ハウスへいちごの苗を定植・管理、そして就農地探しなど、忙しくも充実した日々を過ごしていました。

特に、いちごの収穫や選別・管理作業については、町内外のいちご農家さんで体験させていただいたり、お話を聞くことができたり、さらに知識が深まったいい機会となりました。

百聞は一見に如かず。話だけではなく、実際に行くことで新たな発見がある。就農後もその行動が自分たちのレベルアップにつながると感じた年となりました。

さて、これまでは体をフル回転していましたが、作業が少なくなった冬は、本を開いて農業の勉強、就農に向けた書類づくりと頭をフル回転…。まだまだ忙しい日々が続きそうです。

▲ブロッコリーの収穫をする星さん夫妻

協力隊の活動はフェイスブックで発信中です！

Facebook
https：//www.facebook.com/toyoura.chiikiokoshi/

町長からのそよ風だより　第75回

町長から身近な話題や皆さんへのメッセージを紹介します。

日に日に寒さが厳しくなる師走、町民の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます

11月27日、いぶり噴火湾漁業協同組合豊浦支所ホタテ養殖部会との出前ふれあいトークがありました。

へい死問題やコロナなどによる価格の低迷、人件費や資機材などの経費増加のほか、各施設の老朽化の問題など、漁家経営には厳しい状況にあるとの認識を新たにしたところであります。

本町は重要な1次産業である農業・漁業の振興を図っており、水産業においてはさらなる発展を期すため関係団体などと協議を重ね、緊急性・優先順位を勘案し取り組んでいかなければならないものと思っております。

さて、今年は新型コロナウイルス問題で始まり新型コロナウイルス問題で終わるという一年中新型コロナウイルスの年であったといっても過言ではありません。

いまだに全道的に医療機関や介護施設などで集団感染が発生するとともに、幅広い世代で感染の広がりが見られ、特に医療機関においては、患者数の増加による病床や医療従事者の確保に影響をおよぼす心配も出てきております。

このような状況下、豊浦町といたしましても各公共施設などにおいて感染拡大防止に向けて取り組むと同時に、町民の方々に注意喚起を促しているところであります。

年末年始を迎えるにあたり、特に札幌圏への不要不急な外出を自粛するとともに、日常生活においても気を緩めることなく、感染防止対策をさらに徹底されますようあらためてお願い申し上げます。

これから寒さも一段と厳しくなってきますので、体調管理には十分注意していただき、輝かしい新年をご家族共々お迎えになられることをご祈念申し上げ、本年のご挨拶といたします。